

**PRESS RELEASE**

EMBARGO June 18 10:30am CET

## モバイル通信がアフリカにおける 気象観測に革命をもたらす

- グローバル人道フォーラム、エリクソン、**WMO**、そしてザインなどのモバイル通信事業者がアフリカ全土のモバイルネットワークサイトに自動気象観測所を設置予定。観測所数が現行の**300**弱より**5,000**近くへと大きく飛躍。
- パートナーシップにより、携帯電話を通して、遠隔地の農民や漁師をはじめ、より多くのユーザーや地域社会に気象情報を伝えることが可能に。
- まずヴィクトリア湖周辺地域に気象観測所を**19**設置。毎年、嵐や事故で**5,000**人が亡くなっているこの地域での気象観測が倍増。

ジュネーブ、**2009年6月18日**ー本日、グローバル人道フォーラム (**The Global Humanitarian Forum**) と

プレジデントを務めるコフィー・アナン前国連事務総長は、エリクソン、世界気象機関 (**WMO**)

、モバイル通信会社ザイン、コロンビア大学地球研究所と共同で、気候変動の影響が増大している中、「**Weather Info for All** (全ての人に気象情報を)」イニシアティブにより、アフリカでの気象観測ネットワークが劇的に改善されるであろうと発表しました。

グローバル人道フォーラムによる最新のレポートでは、健康や農業生産性に衝撃をもたらす気候変動が、毎年30万人もの死者と1000億米ドルを越す経済的損失の主な原因であると推測しています。サハラ以南のアフリカは、この損失の4分の1近くを占め、また干ばつと洪水の危険性が最も高い地域となっています。早ければ2020年に農業生産性が50%落ちると予想される場所もあります。

グローバル人道フォーラムは、同フォーラムの第一回の年次大会で強調された、アフリカにおける気象情報の深刻なギャップに対応するため、当コラボレーションを起こしました。参加メンバーは、気候ショックの予測・管理にきわめて重要な情報の提供量を激増させる目的で、アフリカ全土に最高5,000の自動気象観測所を新しく設置するつもりです。

アフリカには、WMOが奨励する最低基準の8分の1のネットワークしかなく、またヨーロッパや北米、アジアの一部には気象観測所が数千もあるのに対して、アフリカにはWMOの観測要件を満たす数の200もありません。今後、アフリカ大陸全体の既存および新たなモバイルネットワークサイトに5,000の気象観測所が設置され、数千万の人命を救い、より多くの経済的機会をもたらします。

革新的な官民のパートナーシップは独特な規模で、このイニシアティブは電気通信の主要事業に依存しています。電気通信の機器およびサービス供給業者として世界大手のエリクソンの協力で、ザインなどのアフリカの通信事業者が、アフリカ中に展開する



モバイルネットワークサイトにある気象観測装置をホストします。5,000の設置目標を達成するには、更なる通信事業者の貢献や外部からの資金が必要となります。

防災グローバルプラットフォーム (Global Platform for Disaster Risk Reduction)

での本活動の発起に際し、コフィー・アナン氏は以下のように述べました。

「世界で最も貧しい人々は、気候変動の影響に関して言えば、その影響を最も被りやすく、またそれに対処する設備を誰よりも持っていないのです。今日、アフリカのいたる場所で携帯電話の電波塔が見られます。今まで、これ程の規模で気象観測することはできませんでした。様々な官民からの専門技術と資源を結集することによって、このプロジェクトは、気候変動の影響に苦しむアフリカの地域社会の暮らしを向上させ、人命を救う一助となるのです。」

また、本活動の発起において、エリクソンの社長兼CEO(最高経営責任者)

のカール＝ヘンリック・スヴァンベリ氏は以下のように述べました。

「エリクソンは、アフリカ大陸で100年以上も活動し、アフリカにおける電気通信供給のトップ企業として、モバイル通信の急速な拡大を推し進めています。このイニシアティブは、気候変動の影響を最も受けている人々の負担軽減に一役買うと同時に、アフリカ大陸全土の気象ネットワークとシステムを強化するというユニークな機会を与えてくれます。イニシアティブの完全実現を目指し、さらに多くの事業者が参加することを期待します。」

モバイルネットワークは、気象観測装置の維持に必要な接続性とパワー、セキュリティを提供します。また、エリクソンはアフリカにあるモバイルイノベーションセンターにてモバイルアプリケーションを開発し、アフリカ諸国の気象水文機関 (NMHSs) が作成した気象情報を携帯電話で通信できるようにします。モバイル通信事業者が自動気象観測所を維持し、各国の気象庁へのデータ送信に助力します。

第一回目の設置が、ケニヤ、タンザニア、ウガンダのヴィクトリア湖周辺地域のザインのネットワークで始まりました。19の観測所が設置されると、湖周辺地域での気象観測能力は2倍になります。以下はザインのCEOサアド・アル・バラク氏のコメントです。

「アフリカ中の多くの地域社会が正確な気象情報を容易に入手できるようになったのは本当に素晴らしいことです。世界で最も遠隔の地にいる人々の生活の質と安全性を向上させるのに、モバイル通信が重要な役割を果たしているのがわかります。」

アフリカの人口の約70%、つまり7億人近くが生活の糧として農業に依存しています。またアフリカの農業の95%以上は降雨量によって決まります。気候変動による天候パターンの変化は、長い間培った従来の農業関連知識に代わる気象情報の必要性を増大させているのです。

また、ジュネーブでの発表において、WMO

の事務局長で、NMHSsの参加をコーディネートしている国連システムの「Weather, Climate and

Water(気象、気候、水資源)」の権威であるミシェル・ジャロー氏が以下のように述べました。

「食糧生産に関しては、気象、気候、水資源を考慮して何事も決定しなければなりません。アフリカが一丸となって取り組む「Weather Info for All (全ての人に気象情報を)」イニシアティブが、改良された気象情報とサービスを

ERICSSON 



 The Earth Institute  
AT COLUMBIA UNIVERSITY

提供する力を我々の188のメンバーに与えることでしょう。NMHSsを通して、WMOは必要な気象情報を特定し、技術的要件に関する助言をし、そして情報を広く伝える努力をします。何十年後には、このイニシアティブがアフリカの気象学で最も重要なものの一つであることが実証されるかもしれません。ですから当プロジェクトは、2009年8月31日から9月4日にかけてジュネーブで開かれるWMO主催の第3回世界気候会議の目標を支援することにもなるのです。」

当イニシアティブは、アフリカ諸国の気象機関での研修や技術能力を支援するため、農業や災害対策にとどまらず多方面に影響を与えることとなります。そして、より良い気象情報は、降水量などの気象データ指数に基づくマイクロインシュアランスなどのサービスの開発を可能にします。また、科学者だけでなく、水道、輸送、エネルギー産業にも有用な情報量が増すこととなります。

アフリカにおける気象情報のギャップは特に深刻ですが、当イニシアティブが今後、影響を受けている他の地域にも広がっていくことでしょう。

ジェフリー・サックス氏が代表を務めるコロンビア大学地球研究所も当イニシアティブのパートナーです。地球研究所のパートナーシップにより、アフリカで最も貧しく影響を被りやすい地域へも情報を提供するために、ミレニアム・ビレッジ (ミレニアム開発目標に焦点を当てた10カ国に及ぶ農村部の開発プロジェクト) にも自動気象観測所を設置します。地球研究所の科学者たちが持つ気候学、農学、衛生に関する専門知識を活用することにより、その多大な量の知識バンクから、迅速な効果が期待できる重要分野を特定することを望んでいます。

ジェフリー・サックス氏の発言：

「この非常に革新的な計画のパートナーであることを地球研究所は誇りに思っております。」と研究所所長のジェフリー・サックス氏は述べました。「一度スイッチが入れば、広範囲にわたる気象データの流れがアフリカ中で入手可能となり、為政者から小自作農家までが恩恵を受けられます。サハラ以南のアフリカでの回復力と持続可能な開発を支えるために、ミレニアム・ビレッジは気象データの実用的でタイムリーな活用を始めるのに最適な場所です。」



以上

#### 編集者への注

グローバル人道フォーラムおよび「*Human Impact Report: Climate Change – The Anatomy of a Silent Crisis*」報告に関しては[http://www.ghf-ge.org/programmes/human\\_impact\\_report/index.cfm](http://www.ghf-ge.org/programmes/human_impact_report/index.cfm)および <http://www.ghf-ge.org>をご覧ください。

WMOおよび第3回世界気候会議の詳細は<http://www.wmo.int>および[http://www.wmo.int/wcc3/index\\_en.html](http://www.wmo.int/wcc3/index_en.html)をご覧ください。

ザインに関する詳細はウェブサイト([www.zain.com](http://www.zain.com))をご覧ください。電子メール([info@zain.com](mailto:info@zain.com))にてお問い合わせください。

ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトに関しては<http://www.millenniumvillages.org>をご覧ください。



世界気象機関 (**World Meteorological Organization**) (**WMO**)

電話 Carine Richard-Van Maele (Chief, Communications and Public Affairs)  
+41 (0) 22 730 83 15

電子メール [cvanmaele@wmo.int](mailto:cvanmaele@wmo.int)

ファックス + 41 (0) 22 730 80 27

電話 Gaëlle Sévenier  
+41 (0) 22 730 8417

電子メール [gsevenier@wmo.int](mailto:gsevenier@wmo.int)

電話 Lisa Muñoz  
+41 (0) 22 730 82

電子メール [lmunoz@wmo.int](mailto:lmunoz@wmo.int)

コロンビア大学地球研究所 (**The Earth Institute at Columbia University**)

電話 Xkyu-Young Lee  
+1 646 337 3528

Email [klee@ei.columbia.edu](mailto:klee@ei.columbia.edu)